

# 災害に対する大学としての取り組み

—日本赤十字九州国際看護大学—

## 学長指定研究チームの発足

- ◎平成 28 年の熊本地震をきっかけに赤十字の大学として災害看護への取り組みについて、田村やよひ学長より提案があり「学長指定研究チーム」が発足しました。
- ◎本学は、福岡県北西部に位置していますが、周辺に災害拠点病院がないという地域特性があるため、地域に密着した大学の役割として近隣の医療機関と連携した災害看護に関する現任教育の支援の必要性がありました。活動として看護師を対象にした災害看護研修の企画・実施、地域住民を含めたシンポジウムを開催しています。

## <看護職対象の災害看護研修>

災害時にとっさの行動がとれることを目指して、「いざという時に動けるワタシになるために」シリーズの研修を 2 回開催しました。近隣の看護職を対象に災害看護の基礎、応急処置の演習、被災者および支援者のメンタルヘルス、受援時の備えについて、本学の各専門領域の教員によって講義、演習、グループワークを展開しました。



①講義



②演習

研修に際して事前課題を提示し、参加者の所属施設の状況を考えた上で、研修に参加していただきました。その結果、熱心な意見交換や情報交換が行われ、これまで災害を体験していない施設が多かったこともあり、「いざという時に動けないかも?」という不安を持ちつつ積極的に参加されました。修了者に対し、修了証と本学学部の学生がデザインしたバッチ(右図)を贈呈しました。



## <地域・行政・大学・医療をつなぐキックオフシンポ>

地域コミュニティ、行政担当者、復興支援の学生サークル、災害専門看護師、大学教員がシンポジストとなり、活発な意見交換を行いました。また、避難所に必要となるグッズの展示も行いました。今後も、地域住民並びに医療機関と密接な連携を深めながら、赤十字大学の特徴を生かした災害看護への取り組みを進めていきます。



①非常食の試食



②シンポジウム



③展示